

自己評価および外部評価票

「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「お年寄りを敬う」という事業所全体の理念を掲げ、グループホームとしては「その人らしく、その人のために」「地域の一員として生活する」と具体化し、実践できるように努めている。	昨年の評価結果に基づいて、事業所全体の会社理念とは別に、グループホーム独自の理念を職員間で検討し決定した。その理念は、事業所や職員が大切に実践してきた現場から導かれ、これまで以上にその実践に向け努めている。	独自の理念が事業所内に掲示されること、今後の事業所発行の通信物などに記載されることを期待したい。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域交流会、運営推進会議、ボランティアサークルへの働きかけなどを通じ、地域の方々とつながりの構築に努めている。	「地域交流会」を年1回開催している。事業所近辺に住む人々・民生委員・区長に声をかけている。利用者と一緒に夕食を摂り地域と事業所の情報交換をしている。また、地域の方々の意見を取り入れるよう努力している。野菜作りや水やりなどでも日常的な交流につながっている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談対応、見学には常時対応できるようにしている。また、地域の方を対象とした認知症勉強会を計画している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、グループホームからの報告、事業計画についての話し合い、助言をいただき、サービスに反映できるよう努めている。	会議の開催目的やその役割や意義についてしっかりと理解できていて関係する多くの参加者によって開催されている。地域住民や関係者、利用者家族、ボランティア関係者などからの忌憚ない意見をサービスや運営に反映している。そしてその結果報告もできている。	必要な情報が整理され、会議の様子が一目でわかるきちんとした会議記録となっている。参加者の意見を大切に検討しそれを反映している様子も詳しく分かる。また、結果報告もきちんと行っている。今後はその流れが一目でわかるよう記録されることを期待する。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や日々の業務の中で連携を図れるように努めるとともに、部会等への参加も積極的に行うようになっている。	県や市が開催する勉強会への参加や部会への参加などで協力関係を築けるようにしている。また、日常の中での報告や相談など積極的に連絡をとっている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ミーティング等で身体拘束についての理解を深め、拘束による弊害についても把握できるようにしている。また、利用者の尊厳を守ることを常に念頭に置き、拘束排除に取り組んでいる。	倫理規定が作成されている。拘束しないケアについて職員間で理解を深めるよう取り組んでいる。職員は安全に配慮した対応を正しく理解できている。ベッドからの転倒防止について、その人の状態と環境と想いについて十分な検討をして安全に配慮した対応をしている。また、経過観察を全職員で連携しておこなっている。	十分な情報収集に基づいた検討を実際に行っていてその記録はある。今後はその経過や流れが一目でわかるように記録されることを期待する。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修等に参加し理解を深めるよう努めている。また、虐待の予防のため倫理観を持ち、ケアの質を高めることを常に意識しながら支援を行うことを心掛けている。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度利用されている方が現在1名いらっしゃるが、今後も必要な方がいれば適切な助言をできるようにしていく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約に際しては、本人・家族に文面、口頭にて責任者が細部まで説明し、理解を得ている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に関しては、日々の生活の中で常に耳を傾け対応できるようにしている。家族は訪問時に連絡ノートに記入していただくなど意見を聞けるように努め、速やかに対応できるように心掛けている。	各居室には連絡ノートが備え付けられていて、家族の声や意見や要望などを気軽に聞ける体制ができている。	連絡ノートは意見をしやすい環境だが、家族や関係者のみが集い顔の見える関係での情報交換の場の家族会のようなものにも今後は期待したい。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の全体会議、2週間に1回の責任者会議、毎日のミーティングで職員からの意見を反映、解決できるようにしている。	毎月1回の全体会議があり改善点について話し合っている。2週間に1回の責任者会議もあり職員の意見反映ができる仕組みがある。日常的にも意見は言いやすく、課題・検討・実施・検討を職員と一緒に進めて解決に導いている。	必要な情報が整理され、会議の様子が一目でわかるきちんとした会議記録となっている。現場に必要な職員からの鋭い意見が検討され反映している様子も詳しく分かる。今後はテーマ別に検討した流れがわかるよう整理することを期待したい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得などにも積極的に取り組んでおり、勤務時間・給与水準は各自の希望に合うように努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を立て、職員のスキルに合わせた研修が受けられるような機会を働きかけている。また、研修で学んだことは他職員に伝達し、ケアの実践につながるようにしている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡会等に参加し、同業者との交流、意見交換、学習会等を行っている。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者に施設見学をしていただき、ニーズの聞き取りを行い、以前利用されていた事業所との情報交換も行う。その上で生活の場として合うか、ニーズを満たせるかを総合的に判断していただく。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の施設見学を通じニーズの聞き取りをする。その上で家族の希望されるサービス提供ができるかどうか、本人の生活の場として合うかどうかなどを総合的に判断していただく。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な機能を持つ複合型施設のため、自施設、他施設を問わず、利用者のニーズに合わせ、必要なサービス提供ができるように心掛けている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの経験、生活暦を大切に、スケジュールにとらわれず「利用者の生活をスタッフがお手伝いさせていただく」との考え方を心掛けている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意見・希望を聞きながら、本人の様子をお伝えして、本人と家族、家族とスタッフのコミュニケーションを図りながら、本人を支えていけるよう心掛けている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人・家族からの馴染みの聞き取りなどを通じ、関係が途切れないように、可能な限り働きかけるようにしている。	教員だった人を教え子が気軽に訪問でき、それが継続的に可能となるよう支援するなど、本人やご家族との日常的会話からの聞き取った情報も大切にして支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの状態を念頭に置き、利用者間でのコミュニケーションが図れるように支援している。また、プライベートな空間や時間を作ることに注意している。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要があれば訪問、電話対応などができるところを説明し、体制を整えるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時や定期的に本人・家族からの聞き取りにより確認し、職員会議、ミーティング等で意見交換しながら、希望に添えるよう本人の思いを大切にしている。	入居前の暮らし方を家族や本人から聞き取り、シートに記入または聞き取りによって把握した内容を大切にして全職員が統一したケアができるよう努め、日々の様子から本人の気持ちに寄り添えるよう日々検討している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力していただきながら聞き取りを行い、職員全員が把握できるように努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートの記入、職員会議、ミーティングにて検討している。また「能力を守っているのか。奪っているのか」の視点を大切にしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	プラン作成時にアセスメントシートの記入、月1回のカンファレンス、毎日のミーティングで職員間の話し合いをし、意見を出し合いながら、本人・家族の希望もできるだけプランに反映できるように努めている。	介護計画の見直しは3カ月ごとに行い、家族の意見はきちんと聞き取り、担当者会議記録にその内容が記録されている。「馴染みの美容院があった」という何気ない本人の一言から、本人のこれまでとは異なった対応の必要性を察知し、直ちに家族と話し合い本人の希望に添えるよう努めるなど、全職員がチームとなっていて、日常の関わりからの気づきで本人・家族の希望・現状に即したプランとその実施を行っている。	情報収集を利用者の日常の様子からもキャッチして全職員で検討して、必要であれば即介護計画に盛り込んで実践している。この流れの記録が散在してしまっているので、一目でわかるような記録に期待する。
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	グループホーム業務日誌、個別ファイル、アセスメントシートの記入、毎日のミーティングで情報を共有し、ケアの実践やプランの見直しに反映できるように努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族のニーズに可能な限り対応、支援できるように心掛けている。自主事業の介護タクシーの利用など、ニーズには柔軟に対応できるようにしている。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通じ、地域とのつながりを持てるようにしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望するかかりつけ医と連携をとりながら支援している。相談、話し合いを大切にしながら納得のいく医療を提供できるようにしている。	入居前からの主治医で継続をする方、入居時に家族や本人と話し合って嘱託医に変更する方、それぞれで、希望に応じている。家族が受診に連れて行く。嘱託医の往診、訪問看護があり、家族の意向に応じた納得していただける医療の提供を行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師が定期的に訪問し、本人、職員からの訴えに対応し、利用者の健康状態の情報の共有、管理に努めている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期の退院に向け、主治医、ソーシャルワーカー、家族と話し合いをし、情報の共有に努めている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者、家族の希望を伺い、できる限り希望に添えるように、主治医、訪問看護師、家族と十分に検討している。	週1回の往診、週3回の訪問看護があり、緊急時の体制や連携は図れている。入居時には家族と終末期の迎え方について十分に話し合っ、ご家族や本人の納得のいくよう対応できる準備がある。	入居時や状態に変化があった時のみの記録ではなく、話し合った時または定期的な話し合いを設けて、その都度の記録がのこるよう期待する。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心配蘇生法、救急法の講習を受けている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡訓練、避難訓練を実施し有事に備えている。また、地域の方にも訓練への参加を呼びかけ、参加していただいている。	運営推進会議で訓練への協力を検討してもらった結果、協力しやすい体制での実施について意見をもらい、それを実施に反映させた。具体的には、開催を日曜日にする、実施のチラシを全戸配布（職員が自らポスティング）等で地域住民からの協力を得た。年2回実施、地域住民への実施後の報告もできている。	地域住民からの協力体制の中で夜間想定での実施ができていて、改善活動も行っている。冬季での想定、避難後の対応などの訓練の実施、そして職員が担当する役割が実践可能になるような訓練を期待したい。そして避難場所の検討を具体的に進めることを期待する。

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自己決定を尊重し、尊厳を守ることがを会議等で話し合いにより徹底し、ケアの質の向上に努め、権利侵害とならないよう常に意識している。	時間や一日の流れで縛りは無い。一日の流れはあるが、一人ひとりのその日毎の思いに応じた言葉かけや対応をしている。利用者本人の自己決定を尊重しそれを受け入れている。	利用者の使い良さを考慮してトイレの入り口が2つある。使用中の羞恥心に配慮した扉の開閉に早急な工夫を期待する。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話の内容、質問方法において常に利用者を意識し、自ら選択できる方法を取りながら自己決定を促している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホームの目標である「その人らしく、その人のために」を実践できるよう、自己決定の尊重、個別ケアを意識し支援している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好み、季節感など、家族に協力を得ながら、衣類・枚数などを選択できるように支援している。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は調理員が作るが、盛り付け、配膳、後片付けなどは利用者に協力していただく。また、毎月の給食会議にて、利用者の意見の反映を図れるように努めている。	デイサービスの併設があり、調理員が作るが、盛り付けや配膳など自分のできることを手伝う姿は、はつらつしている。毎月開催される給食会議では各部署の職員が利用者さんの食事の様子やアンケート結果などから把握した様子を報告し、給食委員会で検討されている。毎日検食し、日々の献立や味付け盛り付けなどについての意見も反映させている。	職員は昼食時に同席して支援や見守りを行っているが一緒に食事をする職員がいない。一緒に食事をすることで、はずむ会話があって今以上に食事が楽しくなると考えられる。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は日誌に記入し管理している。それを参考に、盛り付け量、形態などを考え、食事量が低下している利用者には好みのものを提供するなどの支援を行っている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行いそれぞれの方に合わせた支援を行っている。義歯は毎日洗浄剤を用いて消毒している。		

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により各自の排泄パターンの把握に努め、個人に合わせて無理強いせずに排泄介助ができるように努めている。	排便排尿のそれぞれのチェック表があって一人ひとりのパターンの把握に努め、さりげない観察でプライバシーを大切に無理のない声掛けをしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適切な水分補給、適度な運動を心掛けている。また、下剤の使用は主治医の指示のもと、担当者が責任を持って行うように徹底している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回午後に入浴を行っており、希望されればそれ以外でも入れる体制をとっている。今後入浴の個別支援について、時間・回数などの工夫が必要と考えている。	週3回入浴という基本の体制はあるが、一人ひとりの希望に応じた入浴体制をとっているが、個別支援については対応できるよう検討中。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠までの導入ケアを個別の状況に合わせて支援している。眠剤・安定剤の服用に関しても、効果だけではなくリスクも十分に理解できるように努めている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬に関して把握するよう努めている。主治医、訪問看護師と連携し、内服が変わった場合も記録に残し情報の共有に努めている。作用、リスク両面を理解できるように努めている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりができることを主に、趣味ややりたいことを支援している。また、日常生活の中で役割分担をしていただくことにより、本人の意欲の向上につながるよう努めている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的には花の水やり、野菜の世話、散歩などの機会に戸外へ出ている。行事の際には、家族、地域の方に移動の介助、付き添いなどの支援を受けて外出している。	運営推進会議など地域との関わりを大切に考えているので、会議や行事が単体のものならず、日常的な外出支援においても地域の方の協力をいただきながら支援している。花の水やり・ミニマートの世話・買い物など。行事では家族の協力もある。	

グループホームゆりかご

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方については、家族の理解を得て持っていていただいている。支払い等でお金を使う際には、状態に合わせて職員が見守り等の支援をしている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望されればいつでも対応ができるようにしている。それぞれの方の状態に合わせて使い方などを支援している。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	飾りつけなどを工夫し季節感をもてるように支援している。ホール天井には天窓を設け自然光を取り込めるようにしている。押し付けとならないように配慮しながら、利用者が心地よい空間となるよう配慮している。	共有する空間には、季節の花を色紙で描いて飾ってある。飾られている外出時の写真などを見て利用者が楽しかった時を思い出して話をしている。利用者からの要望でこたつをつくるスペースを確保したり利用者が心地よく季節感ある空間作りをしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士は座席の配置等で配慮している。また、共有スペースから少し離れたところにコタツを置くことにより、本人の好きなところで過ごせるように配慮している。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたもの、好みのものなどを持ち込んでいただき、それぞれの利用者に合わせて配置、写真を貼るなどしていただいている。	部屋には、使いやすく居心地のよい配置ができるよう可動式の家具が置いてあり、そこに一人ひとりが使い慣れたものや大切にしているものを持ち込んでいる。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の利便性を考慮し手すり等を設置している。「できること」「わかること」に関しては、それぞれの利用者に合わせて目印をつけるなどの工夫をしている。		